

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進に向けた 現状の取組把握シート

自治体名: ●●県 (●●圏域)

記載例

	ストラクチャー ～しくみや体制など～	プロセス ～手順や活動内容～	アウトプット・アウトカム ～取組の結果・成果、達成度など～
<協議の場>			
場の設置	県担当者とA市担当者、A市保健所間で打合せを行い、(自立支援)協議会の部会を協議の場として位置づけることとした。	自立支援協議会の親会にて検討し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた推進会議体として部会を位置づけることの諮問を得たうえで、同年度より開催した。	・関係者間の顔の見える関係が構築され、A市、病院、事業所間での日常的な情報共有が図られるようになった。
場の機能強化	より効果的な会議を開催するための参加者について、A市担当課、B病院、C事業所が中心となり協議・取組を実施。	招聘すべき関係者を協議の上決定したのち、A市は自治会のキーパーソンへ、B病院はD職能団体へ、C事業所はEピアサポーターへの声掛け及び根回しを行うよう役割分担をした。 ・事前打ち合わせ (7月) ・声掛け、根回し (8～9月) ・会議開催 (12月)	・協議の場で議論した内容を市内の関係団体等にスムーズに伝達できる体制が実現。
課題の抽出・解決①「地域移行支援における精神科病院と相談支援事業所間の連携ルール」	協議の場にて、地域移行する際の病院と事業所間における連絡共有のルール化の必要性が確認された。そのことから、B病院とC事業所が担当となり、市内の病院及び相談支援事業所から、連携に対する意見を抽出。協議の場を情報の集約機関とした。	・第2回の部会にて意見を集約 (5月) ・第3回の部会にて課題として整理 (6月) ・市内病院及び事業所へのアンケート (それぞれ職域団体を通じて配布) を実施 ・B病院とC事業所による打合せにて、調査結果を事前とりまとめ ・第4回の部会にて連携ルールについて検討 (8月) ・A市、B病院、C事業所が連携パスの素案を作成 ・第5回の部会にて連携パスの内容を検討 (10月) ・第6回の部会にて、市内の様々な関係者の意見もヒアリングし、パスを確定 (12月)	・退院から地域移行・地域定着へとステージが変わる際の連携が効率化され、地域移行支援の利用者が増加した (平成●年8件→平成●年52件) ・退院時カンファレンスへの相談支援専門員の参加率が向上 (平成●年10件→平成●年35件) ・市内で統一のパスができたことで、関係者間の情報共有がスムーズに行えるようになったとの声が聞かれる。
課題の抽出・解決②			
<住まいの確保支援>			
<ピアサポーターの活用>			
<アウトリーチ事業>			
<入院中の精神障害者の地域移行に係る事<地域移行関係職員に対する研修プログラム>			
<措置<家族支援>			
<地域包括ケアシステムの構築状況の評価>			
<その他地域包括ケアシステムの機能に関する項目>			

左の欄には、何を目的としたか、をお書きください

ストラクチャーには、だれが、どのような場や資源を活用して行ったのか、お書きください

プロセスには、目的に対して、具体的にどのような動きをしたのか、また、そのポイントは何か、などをお書きください

アウトプット・アウトカムには、このような取組をした結果、どのような効果・成果があったかをお書きください。できるだけ、数値で表せるような具体的な表現が望ましいですが、具体化が難しい効果・成果についてはその限りではありません。

ここで示している目的の具体例はあくまで見本としての一例です。この内容をお書きいただきたい、というものではありません。貴自治体にて取り組まれている内容で項目建てをお願いします。

行が足りない場合は適宜追加してください。